

特集・市民と生涯学習⑤

横浜女性フォーラムは、ネットワークづくりの拠点

小山内いづ美

- 一 はじめに
- 二 フォーラムは何をすることでか
- 三 事業を展開する空間の特徴
- 四 五つの柱を推進する事業の展開
- 五 このほかの事業として
- 六 フォーラムの認知度と利用意向から
- 七 フォーラム開館後の利用の特徴について
- 八 今後の課題

一 はじめに

戸塚駅から活気あふれる商店街を歩いて七分、柏尾川とJ.Rの線路にはさまれた三角地帯に、昨年オープンしたばかりの横浜女性フォーラムがある。

「女性フォーラムって、男のひとも利用できるの」と、よく聞かれる。この「女性」とは、女性だけの施設という意味ではない。「女性問題」を男女が一緒に解決していく、共に生き生きと暮らすことを表している。

国連婦人の十年の動きを積極的に受け入れ、市民局婦人行政推進室が準備担当となり、横浜に合った施設づくりを試みた。

フォーラムをつくるための基礎調査から始まり、建設、事業カリキュラムづくりまで準備に約七年かかった。その間に男の分野と言われてきた建設の仕事に女性が入り、フォーラムの「基本構想」や事業を市民も女性問題専門家も元氣な女性たちも一緒に行動し、影響しあいながら築いてきた。

この過程で、次々とネットワークの結節点が生まれ、そこから網の目が広がり始めている。自分で考えたことを、責任をもって実現する楽しさに気付いた女性が増えてきたなあ、と実感している。

二 フォーラムは何をすることでか

「フォーラムは女性問題を解決する施設」といつても、実際に何を解決するのかみえにくい。そこで、婦人行政推進室では、横浜の女性の生活実態と意識を把握し、課題ごとのニーズと解決方法を明らかにする調査を行ってきた(図一)。

フォーラムは何を解決し、どのようなことを応援したら良いのか。これまでの調査結果をたどりながら、横浜の女性と男性の解決課題を、ここで簡単に述べる。

① フォーラムが応援する女性のニーズ

横浜には、「日常生活上の悩みを気軽に相談したい」「人生をひらくのに役立つ仕事や活動

図一 横浜女性フォーラム建設事業及び女性問題調査の経過

横浜女性フォーラム建設事業		女性問題調査	
女性センター基礎調査 (婦人施設の現状、ニーズの方向)		(1) 横浜市婦人の生活実態と意識調査 (家庭、職場、地域での現状とニーズ) (2) 婦人スポーツトレーニング施設 基本構想調査	1980年度
横浜市女性の施設利用とネットワーク化調査 (婦人関連施設の施策、情報、人材の関連状況)		(1) 主婦の意識面接調査 (現状と生活歴、背景) (2) 横浜市女性の自主グループ活動調査	1981
センター基本構想準備委員会 (行政内部 22人)		(1) 横浜市女性の労働と生活調査 (就労意識、労働阻害要因)	1982
基本構想策定 構想委員会 (有識者6人+市民10人+行政6人)		(1) 横浜市女性の生活ネットワーク調査 (需給双方のニーズ、内容方法、 既存組織の実態)	1983
用地取得 基本構想、施設構想、印刷		↓ニーズ (1) 婦人総合相談調査 (2) 横浜市女性の再就職調査 (再就職者の実態意識、今後の方向)	1984
測量調査等 基本設計	設計検討委員会 管理運営計画 事業プログラム計画	(1) 女性の情報システム作り基礎調査 (民間情報、行政情報) (2) 生活情報ニーズグループインタビュー 調査	1985
実施設計	パンフレット印刷 市民への広報活動	(3) 横浜市女性の再就職雇用動向調査 (企業の再就職女性の実態、労働条件、 今後の方針等の調査)	
工事着工 (86.10)	情報ネットワークシステム設計 事業計画作成 資料収集 総合相談システム作り 地域助け合いネットワークづくり	(1) 女性人材情報収集調査 (2) 横浜市女性の能力開発調査	1986
竣工 (88.3)	事業実施計画作成 (自己開発プログラム、 再就職セミナー、健康、生活) 図書資料収集 データベース作成 財団設立「横浜女性協会」 シンボルマーク募集	(1) 生活自立基礎調査 (2) 横浜女性フォーラム健康事業企画調査	1987
開館 (88.9)	職員採用、訓練、事業準備、 資料収集 データベース作成 オープニングイベント 事業実施		1988

旧称、女性センター→横浜女性フォーラム (通称 フォーラム)

情報を手に入れたら、「子育てが一段落してから、再就職したい」という女性が多い (図一2参照)。

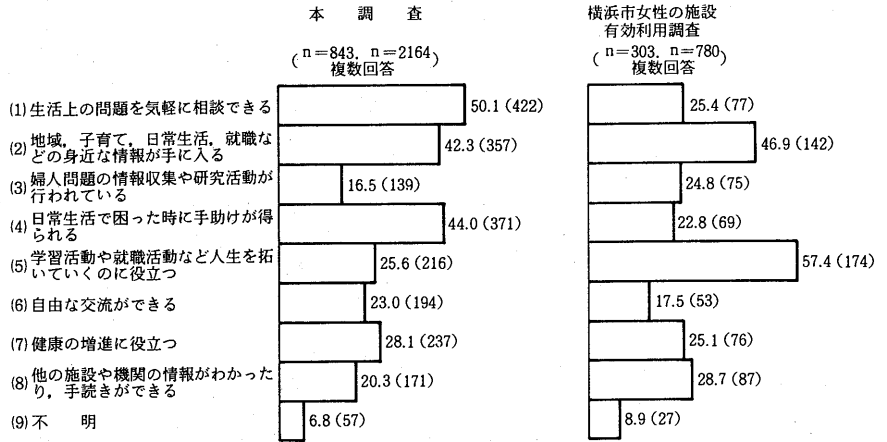
そこで、フォーラムにける相談ニーズと、生活情報の内容と必要度を具体化しようと、さまざまな分野の相談員たちと話し合ったり (横浜

市女性のための総合相談調査一九八四年)、「生活情報ニーズ」を直接市民女性から、ライフスタイル別に聴いてみた (横浜市在住女性の生活情報ニーズ探索のためのグループインタビュー調査一九八五年)。

フォーラム事業化調査として実施

表一はその結果を一覧にまとめたものである。本人が働いているかいないか、子供がいるかいないか、結婚しているかいないかで生活に困っていることがそれぞれ違う。しかし「婦人科系の健康に関すること」「(再)就職に関すること」については、どの層も強かった。「婦人科系疾患、医者までいなくても聞いてもらえるところがあれば」「正し

図一 横浜女性の生活ネットワーク調査「フォーラムへ望むもの」



(注) 83年3月横浜市民政局実施、同一質問による調査。

性知識を知る手段がほしい」というつぶやきは、情報が氾濫しているにもかかわらず、困っている状況を明らかにしたといえる。このニーズは、フォーラムの「健康サロン」をつくりだすきっかけとなった。

「再就職へのアドバイス」「仕事の探し方たつくりかたを知りたい」という強い希望については、フランスのルトラヴァイエ協会から、女性の再就職を応援するカリキュラムを導入する結果に結び付いた。

表一「具体的必要情報」にあがった内容で、今フォーラムが何らかの手助けができる項目に●印をつけたところ、かなり女性たちの希望が実現したのでは、と感じている。

男女が生き生きと暮らすことができるよう一人ひとりをフォーラムは応援したい。

そのためには、フォーラム全体はどのような方向を目指すべきか。検討を重ねた結果五つの事業の柱が設定された。

② 自立を応援する五つの事業の柱

男女が共に生き生きと、しかも平等な関係で暮らすことができるよう、フォーラムは、一人ひとりの「自立」を応援する。

そのためには、各自にあった応援の仕方が多様にあるが、現在の社会的な状況を見渡すと、まず女性の「経済的自立」、男性の「生活の自立」、男女とも基本的な課題である「性の自立」、横浜で、身近な女性問題に気付き、解決する力を育てる「くらしと活動のネットワークづくり」が必要である。

これらに、国内、海外の新しい動きや先進事例を吸収し、歴史的なできごとを問い直し、フォーラムの動力源としていく「調査・研究」を加え、五つの柱とした。フォーラムの目的を達成させるための大きな事業の実施方針である。

フォーラムは五つの柱にそって、市民一人ひとりを応援し、女性問題解決に役立つ身近な情報や事業を発信するところである。今はまだ、これまで築いてきたネットワークの力を頼りに、展開を始めたばかりである。

三 事業を展開する空間の特徴

三階建てのフォーラムは前庭から見ると、高い丘のようである。テラスや窓がたっぷりとつてあるので、中に入ると、どこも明るく、開放的な気持ちになってくる。心の壁をとるように思い切って間仕切りをなくしたためである。

女性問題や生き方を考えるのに役立つ図書やビデオ、生活を応援するデータベース「フォーラムメディア」、ゲームパソコンなど自由に利用できるものは、入ってすぐの一階の情報ライブラリーにある。初めて来るひとが、気後れせず安心して使える配置や調度を試みた。

表一 横浜在住女性の生活情報ニーズ探索のためのグループインタビュー調査 (結果一覽)

	グループ別ニーズの程度					具体的必要情報	現在持っている情報	提供方法に関する提案
	未婚無職	未婚有職	若年有職主婦	若年専業主婦	高年有職主婦			
健康① 一般的な病気	△	△	◎	◎	△	●近所の病気情報 ●病、預けに困っている病状 ●緊急対応 ●出前後に困っている病状	○友人、知人、親戚 ○医者 ●電話帳	●市と区への情報提供に電話リスト ○子供会 ●11番 ●自治体情報提供
健康② 婦人科系の問題	◎	◎	◎	◎	◎	●正しい知識 ●婦人科系疾患、医者まで行かなくても聞いてもらえる所 ●検査で全てで済んでいい選択法 ●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○学校での健康教育・雑誌 ○産婦人科 ○保健所 ○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
出産		◎	◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
子育て		△	△	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
家事	△	△	◎	◎	△	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
家事以外の日常生活		△	◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
就 職	◎	◎	◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
出 産	◎	◎	◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
職 式	△	△	◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
お金に関する事		◎	◎	◎	△	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
法 律		△	△	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
レジャー関連		△	◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
趣 味			◎	◎	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア
美 容	◎	◎	△	△	◎	●産後のケア ●産後のケア ●産後のケア	○友人、知人から ○本・雑誌・母親教室 ○夜間看護 ○産科 ○産科 ○産科	○専門家による相談 ●本の紹介 ○相談コーナー、治療コーナー ●産後のケア ○産後のケア ○産後のケア

◎非常にニーズが強い ○ニーズが強い △ニーズがある

相談室は、一階の奥にある。ちよつと何か尋ねたいひとや話をきいてほしいひとと深刻な悩みを抱えたひとと、まわりを気にせず入ることができるようという配慮からだ。相談の部屋は、一般家庭のリビングルームの雰囲気と変わらない。

印刷工房は、情報の整理やお知らせ、新聞、ミニコミづくりなどに、いつでも自由に使用することが出来る。たくさんの活動グループが希望していたスペースである。

ホールは、可動舞台を下げると平土間になり、多目的に使える空間だ。親子席があるので、赤ちゃんづれでも安心してホールの催しに参加できる。

二階へあがった右手に音楽室、左手にテラスまで見渡せる床張りの生活工房がある。思い切ったオープンシステムで、和室と一緒に使え、衣食住に関するだけでなく、利用者が企画と材料持ち込みで自由に使える創造空間である。出合いや伝え合いの場でもある。

ほかに、映像工房、セミナールーム、事務室がある。

三階は、心とからだ・健康づくりのスペースといえる。フィットネスルームでは、自分を表現したり、自分のからだに合った体操ができる。

健康サロンは、性について、心とからだにつ

いて、楽に語り合える、アドバイスを受けられる場である。ビデオや資料をみながら、考える場もある。恥ずかしい、聞いてみようかと躊躇しながら入ってくるひとを暖かく迎えらるような雰囲気工夫している。

ほかに会議室、企画ルームがある。各部屋を外から見えるよう思い切つて一部ガラス張りにした。企画ルームは、市民研究グループを育成しフォーラムと一緒に調査や研究作業を行うスペースである。

四——五つの柱を推進する事業の展開

各事業が、一人ひとりの自立を応援するために、横割りで柔軟な対応を図っていききたい。そのためには、フォーラムの中を十分にネットワークすることが必要条件である。

では、各事業がどのように連携し展開し始めたかを述べる。

①「経済的自立」

子育てが一段落したら仕事をしたい、と考えている女性が横浜にはたいへん多い。情報交流事業では、生き方や仕事に関する情報を手にいれることができる。「今はまだ、」と思っっているひとにも、フォーラムに本やビデオなど資料が

そろっていることは、これからの励みや刺激になる。

フォーラムメディアの「しごとカタログ」と自己開発プログラム「しごと」の「職種」は、「年齢に関係無く始められるもの」「生活能力のある女性に向いているもの」「これまで男性職種といわれてきたもの」「あまり知られていないもの」を優先に、項目をそろえて紹介している。たとえば、「消費生活アドバイザー」「DIYアドバイザー」「家事出張サービス」「自動車整備士」などだ(表1-2)。仕事に就いて、家族の関係はどうかわつたか、収入は、など実際に必要な内容を取材した自己開発ビデオ「しごと」をみながら、その仕事が本人に向いているかを、ステップカードを使って確認できる。

フォーラムメディア「しごと」では、そのほかに「仕事をさがしたい、資格を取りたい、相談したい、子供を預けたい、仕事につながる訓練や学習をしたい」というひとに役立つ「問い合わせ先」や仕事に関する「ことばの解説」「公共職業安定所からの求人情報」などが設けられている。

「講座ルトラヴァイエ 女性のための職業計画プログラム」は、自分の能力や考え方を整理したり、自分に合った仕事に就くための計画を、二十五日間かけて自分でたてる講座だ。

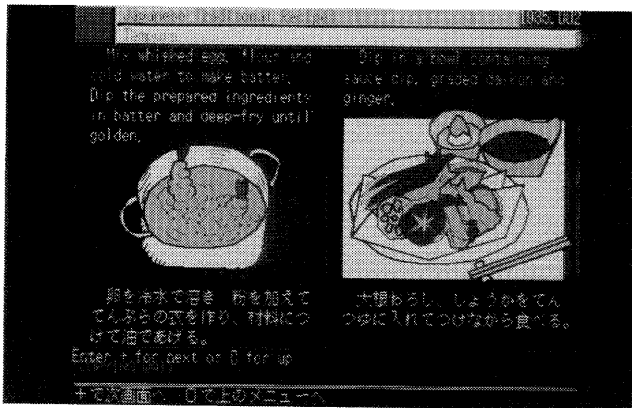
表-2 自己開発プログラムリスト

<p>〈しごと〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.消費生活アドバイザー 2.DIYアドバイザー 3.スペースの運営 4.水泳指導員 5.ワードプロセッサオペレーター 6.翻訳・通訳 7.経理事務 8.フォノライター 9.食べ物屋 10.証券アドバイザー 11.タクシー運転手 12.建設機械運転士 13.学習塾教師 14.彫金 15.インテリアコーディネーター 16.生命保険・損害保険の外務員 17.家事出張サービス 18.秘書 19.フラワーデザイナー 20.プログラマー・システムエンジニア 21.日本語教師 22.自動車整備士 23.カウンセラー 24.学童保育指導員 25.スーパー店員 26.一般事務員 27.洋服のリフォーマー 28.お菓子の店(教室)経営 29.ライター 30.ホームヘルパー 31.ブライダルコンサルタント 	<p>〈じりつ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.さわやか自己主張法 2.もしも離婚を考えたら 3.共働きを愉しむ方法 4.定年後の夫婦つきあい方 5.快適ひとり暮らし 6.男の子の育て方 7.女の子の育て方 8.わたし流結婚式 9.パートナーの選び方 10.お茶くみ克服法
	<p>〈からだ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.基礎体温と月経リズム 2.健康セルフチェック 3.薬と上手につきあう 4.骨の成人病予防(1)変形性膝関節症 5.骨の成人病予防(2)骨粗鬆症 6.もっと知ろう母乳の使い方 7.子どものからだの上手な使い方 8.漢方薬の上にかかっていたら 9.子宮筋腫にかかると 10.アルコールと

(1988年9月現在)

昨年暮れ第一期が終了したところだが、二十四人の定員に六十四人の申し込みがあるほど人気が高かった。八九年一月現在の就職状況は、パートも含め、十九人が就職したり採用試験受験中で、残り五人が四月から職業訓練校などへの入学準備中だ。

写真-1 フォーラメディアの情報例



この講座で、自己開発プログラムやフォーラメディアは重要な情報源として使われた。また必要に応じて、相談室で家族のことや社会にできる不安を相談員に話すことで、受講者の勇気がでたなど、これからも、フォーラム全体が有効に機能できる予感がする。

お店を持ちたいひと向けに「マイショップ・マイビジネス講座」や「ワープロ講座」のほかに、女の大工さんなど、まだめざらしいけど興味のある仕事をしているひとと話したり、仕事

ぶりを伝え合ったりする機会を設けていく。また、働いている人への応援も行っていきたいと計画している。

② 「生活の自立」

「基本構想」をつくる過程で、「女性が経済的に自立することは、家庭生活をおろそかにすることではない。男性も女性も毎日の暮らしを大切にすることは、ひとも自然も尊重していく考え方につながる」と何度も確認し合ってきた。フォーラムで、暮らしの工夫や伝え合いを大切にしている。

若いひとは男女とも生活の基礎知識が少なく、習う機会もないという調査結果をもとに、フォーラメディア「くらし」に、「くらしのベリックレックス」、ほかに「生活の自立度チェック」「こんなときあんなとき相談・問い合わせリスト」「暮らしの便利ガイド」を用意している。女性の一人暮らしでもいざというとき安心できるように、転入してきたばかりでも困らないように、日常の家事育児を妻や母親にまかせたままの人たちにも暮らしに興味をもち、さらに考え方も生活技術も自立できるよう工夫してつくってきた。

また、自己開発プログラム「じりつ」には、なぜ、女は家庭、男は仕事なのかを考えるきっかけを用意している。カップルや友達どうし、グループで、自由に利用してほしい。テーマとしては、「さわやか自己主張法」「男の子（女の子）の育て方」「定年後の夫とのつきあい方」「お茶くみ克服法」などである（表1-2）。

さらに生活工房では、自由に使える場の提供のほかに、おとうさんと子供の料理講座、女性の日曜大工、自動車整備講座など、これまでの役割分担を修正する自主事業は、ここの特徴でもあり、大変好評である。

ネットワークづくりの場として、いろいろな企画を試していきたい。

面白いといわれた企画は、ほかの施設や機関へノウハウとして紹介できるよう記録をまとめることも検討している。

③ 「性の自立」（心とからだの健康）

心もからだも性についても、同じ本棚で図書や資料を探せることは、フォーラムの特徴だ。

また、フォーラメディア「こころとからだ」では、基本的でなかなかわからないことを気軽に調べることができる。

同じく「こころとからだの相談・問い合わせ先リスト」では、今後多くの相談が予想される思春期相談実施機関、診療機関の紹介をし、「保健所カレンダー」ではつい忘れがちになる検

査・健診・相談などのお知らせをみることで、さらに詳しいことや健康全般については、フォーラム三階にある「健康サロン」でわかる。

サロンでは、助産婦の資格をもつ職員がデータベースをみせたり、自己開発プログラム「からだ」や資料を紹介しながら、相談ののっている。「基礎体温でなんだろう、記録のとりかたは」「出産をひかえているが」「体調がいまひとつ、更年期かもしれない」というひとつが、安心して利用できる。若いひとや更年期の女性はもちろん、カップルや男性にも利用してほしい。性、性教育、心とからだ、産婦人科の専門家を囲んだセミナーやサロンも始められた。

あわせてフィットネスルームでは、実際にからを動かすことにより、自分に合った健康づくりができるよう応援している。今のところ、ひとりで自由に使える一般利用者が増えてはきているものの、働く女性の利用が少ないので、呼び掛け方法を工夫したい。

相談や生活工房などの事業と立体的に組み合わせ、心もからだも楽になるような企画を模索している。

④ 「くらしと活動のネットワークづくり」

友達をつくりたい、ある仲間に入りたいと日

ごろ思っている女性は多い。また、横浜にはどのような活動グループ集団があるのか、知りたいひとも多い。フォーラメディア「なかま」にある「横浜市で活動するグループリスト」は、「活動グループの「内容」や「活動日」「構成人数」「連絡先」などがわかるようになっていて、約二千グループの活動状況のみならずも元気でる。

さらに、自分でグループをつくりたいひとや、すでに活動をしているひとへは、「グループ活動応援情報」の項目に活動の実践に役立つノウハウが用意されている。この情報づくりには、実際に活動している女性たちが、失敗談や苦労話をノウハウとして役立てられるよう、データづくりを手伝ってくれた。

活動グループの悩みの種は、「活動資金」「活動場所」「メンバーが足りない」の三つであった（横浜市女性の生活ネットワーク調査 一九八三年）。この結果を生かして、資金をどう調達するか、活動場所はどのようにみつめるか、どこにあるかなど、横浜のグループが知りたいと思われる生きた内容が入っていることが特徴である。グループ活動の活性効果を期待したい。参考となる活動の記録やミニコミなどは、国内、海外のものも収集し、紹介していく予定である。

生活工房にこのごろ、糸を紡ぐひとが増えていく。草木染めのグループが、原毛で糸を紡ぎ、つくったセーターをワークショップで売ったり、紡ぎ方を教える機会をもった。習ったひとたちが自分で紡ぎたいと集まってくる。和気あいあいの中から、何か新しいワークショップをやってみたいと声上がり始めている。

ワークショップや講座に参加したひと同士結び付けたり、いろいろなグループを紹介しながら、新しい動きをつくりだすことがここではできる。

⑤ 「調査・研究」

時代とともに変化する問題を常に把握し、日常のくらしの女性問題解決を目指す具体的な調査・研究活動を、市民や専門家と一緒に、フォーラム各事業の方向性を常に探る役割を担う。

婦人行政推進室で施策に反映させる目的の調査を引き続き行う一方、フォーラムでは、より具体的に日常のニーズをフォーラム利用者から探ったり、市民研究グループを養成しながら、解決策を提案していく。双方がうまく補完することで、横浜市全体の女性問題解決を目指していく。

調査・研究にまず必要となる図書・資料は、

独自分類にくわえ、フォーラメディアからキーワード検索ができる（現在準備中）ので、質の良い資料を何倍にも活用できるようにする。

また公の機関の刊行物だけでなく、保険会社や銀行、マスコミなどの民間会社や草の根の研究グループからも参考資料を集め、一カ所で効率良く調べられるようにしている。

さらに市民研究活動グループづくりも予定している。たとえば、ビデオブースで自由にみることができ「横浜と女性史」ビデオは、概要編であるが、今後の研究活動グループづくりのきっかけになるよう製作したものである。

フォーラメディアには、女性問題関連機関、団体リスト、講師リスト、グラフでみる女性問題として各種データの紹介、女性問題の用語解説をいれている。

関連機関である、都道府県担当課、婦人会館、図書館、情報センター、ミニコミ発行所、書店、全国各大学の女性学講座の紹介、女性学研究機関の連絡先もフォーラメディアでわかるので、問い合わせや情報提供先として利用するだけでなく、催しなどの呼び掛け先としても活用を促し、機関や施設とのネットワークの輪を広げたい。

五——このほかの事業として

① 横浜で生活する外国人のひとへも

横浜で生活する外国のひとたちが、生活習慣の違いや文化の違いにとまどっている現状から、暮らしていく上で本場に基礎的な必要情報としてフォーラムメディア「FOR FOREIGNERS」にまとめた。横浜の国際交流ボランティアグループ有志と何を知らなければならないか、困っているかから何が喜ばれるかまで情報交換しながらまとめた内容である。

緊急時の対処法からゴミをどう出すかなどごく身近なことまで揃えている。

ワークショップ、イベント、シンポジウムにおいて、国際交流や会議の機会をつくるだけでなく、ふだん着の交流や助け合いが行えるようグループや関係機関をつなげていきたい。

② フォーラム保育事業

現在、フォーラム保育協力者が約四十人いる。親が主催事業などに参加して、充実した時間を過ごしている間、子供もたっぷり楽しい時間を過ごしてほしい、という趣旨で子供を大切にしながら保育を行っている。遊ばせ方に、男女の差をつけたり、分けたりしないよう、女性問題の視点からの研修を受け、フォーラムの趣旨を理解したひとたちの集団である。

今、「子供のへや」では子供をあずかるだけでなく、もっと活動の内容を発展させようと保育協力者たちの自主的な力で模索中である。

③ 自然食レストランとフォーラムショップ

レストラン経営者は、元主婦の再就職組だ。自然の素材を生かした、安全でしかもおいしい料理を提供してきた実績を、フォーラムで生かしている。

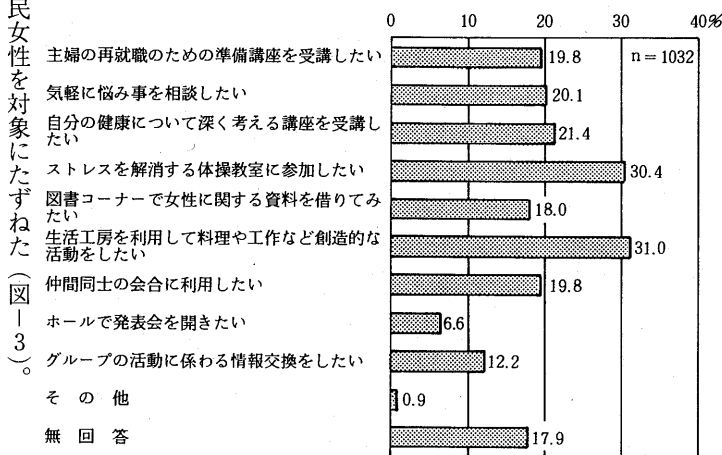
またフォーラムショップでは、暮らしに役立ついろいろな品物を、ここで買うことができる。日常生活を大切にする視点から、利用者へフォーラムの趣旨を伝える手段でもあると考えている。「フォーラムのなかに何があるかみてまわって、元気が出てきた」と見学にきたひとからいわれる。

このように、一貫した趣旨をフォーラム全体が表現してはじめて、来館者に伝わるものがあるのでは、と期待している。

六——フォーラムの認知度と利用意向から

フォーラムが開館する半年前に、「横浜市民女性の生活実態と意識調査」（一九八八年）を婦人行政推進室が実施し、フォーラムの周知度・認知度および予定事業に対する利用意向を、

図一 横浜女性フォーラムの予定事業利用意向



市民女性を対象にたずねた（図一三）。

フォーラムの周知度・認知度は、各地域により、差がある。フォーラムのある戸塚区では、周知度四五・七パーセントと高いが、中区、金沢区、神奈川区などは低い結果であった。

女性問題を解決する拠点として事業を展開していくには、各区の企画担当者や活動のキーパーソンたちと情報交換したり、一緒に企画作業を行うなど、積極的に地域と連携していく必要がある。

予定事業利用意向は、図13のとおりどれも高く、フォーラム各事業にたいする魅力が裏づけられた結果であったので、工夫次第でだれもが実際に利用する施設になると期待している。

七——フォーラム開館後の利用の特徴について

①—家族や男性の利用が多い

親と子供のコミュニケーションワークショップとして「リズムあそび」をフィットネスルームで行ったところ、予想以上に父親の参加が多く喜んでいる。回を重ねていくうちに参加者が仲間づくりもしているようだ。

生活工房の子供と一緒に参加する「パパとくろう手作りピザ」の申し込みもたいへん多かったので担当者は、「パパシ리즈」を企画していく予定だ。暮らしや子育てに興味をもち始めた男性が、参加しやすい企画を待っていたかのような。まだほんのひとにぎりかもしれないが、子供と一緒になら、妻と一緒になら理由をつけてでも来館してくれるのはうれしいことだ。

書架の前に立ち、台所用具の本を選んでいる

中年夫婦、性教育関係のビデオを熱心にみる高校生などもみかけるようになった。
女性問題を考える施設から、男女の生き方を一人ひとりが考える施設へ発展していく可能性が感じられる。

②—フォーラムらしい相談とは

フォーラムの相談員が、「フォーラムらしい相談が来る」ことを実感している。これまで受け皿がなかった相談が来るそうだ。内容は、夫婦の関係、生きがい、心の不安についてが多いようだ。時間をたっぷりかけ、じっくり話を聞き、相談に来たひとと心を開いたりラックスした関係で話をするここの相談室は、衣食住は足りていても、さびしかったり疲れているひとたちの心のよりどころとなっていくそうだ。

そこで、相談に来たひとが、フィットネスルームでからだをほぐしたり、生活工房で気分転換をしたりできるように、フォーラム全体を使った援助方法やワークショップの計画を始めたところだ。

八——今後の課題

まだ開館して日が浅い。既成のイメージにとらわれず、事業を展開していくことができるので、やってみたい企画がどんどん膨らんでいる。
女性フォーラムが、一人ひとりの持つ女性問題の解決、自立の応援、女性の活動領域の拡大、自己実現を応援する拠点として横浜に根づいてほしい。

そして女性たちの力が社会を動かす原動力となるよう理念を大切にし、軌道修正を繰り返しながら進んでいきたい。

一方で、利用者が一体なができるのかわからず、もつとフォーラムにあるものを使って体験するきっかけをつくってほしい、という声も大きい。「さそってくれないと、いられない」というひとまだまだ多い。

一人ひとりを支援するフォーラムにもつと親しんでもらうには、まずフォーラムの中を十分ネットワークし、足元をかため支援態勢を整えていく必要がある。

そうすることで、仲間づくりやネットワークの拠点として力をつけていきたい。

△財団法人横浜市女性協会派遣▽